

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
帰国報告

提出日 2012年8月21日

渋下 賢（しぶした けん）
東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文学開発センター
平成24年度夏個人派遣：PD

研究課題

グアテマラにおけるケクチ語書き言葉インフラに関するアクション・リサーチ

派遣先

グアテマラ共和国 グアテマラ・シティ
ラファエル・ランディバル大学 言語・文化関係研究所
Ana Acevedo-Halvick 教授

派遣期間

出発日：2012年6月11日 帰国日：2012年8月13日 （総日数 64日）

主な研究成果

(1)当初の計画の概要

本研究の目的は、ケクチ語の書き言葉が、住民のコミュニケーション・インフラとなる条件を探ることにある。とくに、インターネットや携帯電話回線でアクセス可能な電子テキストが、書き言葉のインフラ化において果たす役割の重要性を検証する。そのために、ケクチ語辞書や書き言葉テキスト・アーカイヴといったツールの整備に、調査者自身が積極的に関与する。本派遣（2ヶ月）においては、辞書やテキスト・アーカイヴを構成するコーパス作成に着手する。

(2)実際に達成された成果

本派遣期間中、以下に示すように、二者からの協力を得てコーパスを作成中である。いずれも、読み書きの普及途上というケクチ語話者地域の歴史過程で現れる言語的表現を、十分に代表するデータを提供するとみなせる。

【村落共同体の織物生産における実用上の書き言葉】

アルタ・ベラパス県サクシ・チヨ村の女性織物生産団体による、生活水準の向上を目指

した伝統的織製品の商業化プロセスで産出されるケクチ語（およびスペイン語）コーパスの構築に着手した。現地では自己紹介メッセージ 14 名分の録音・文字起こしを行い、現在その解析の途上である。

【熟達したケクチ語教師の経験知の明示化】

長年のケクチ語指導実績を持つ **Liliana Batz** 氏の言語的直観と知識をコーパス化する。これは、語の形態的特徴の記述に関して、従来の文法書が画一的な規則性を強調しがちな一方、辞書は規則性を十分考慮していないことが多いという、各々の欠点を補うことを狙ったものである。現在はとくに動詞に焦点を当て、語彙項目ごとの自／他動性の形態的共通性と変異を軸に構成した「動詞コーパス」を作成中である。

(3) 今後の研究展望

今回の派遣による調査は、より長期的なアクション・リサーチにおけるパイロット・スタディの初期段階と位置づけられる。今後、2012 年度中をめどに、「サクシ・チヨ村コーパス」と「動詞コーパス」をインターネット上で公開することを目指す。さらに、ラファエル・ランディバル大学言語・文化関係研究所や同大学アルタ・ベラパス分校の協力の下、それらのコーパスがもっとも直接的にインパクトを及ぼすユーザを突き止め、調査協力体制の構築を目指す。最終的には、5 年を一つの区切りとして、より多種多様なケクチ語書き言葉コーパスを読み書きインフラとしてインターネット上で公開した上で、電子メディア導入による書き言葉の量の増大がケクチ語の言語的特徴に及ぼす影響を明らかにできると考える。